

デュオ・パンドルフォー＝シュマン

— 天上の歓び —

ヴィオラ・ダ・ガンバ・デュオの200年の歴史
～ ルネサンスからギャラント様式まで～

Program

〈イングランド〉

エリザベス1世からチャールズ1世へ — 後期ルネサンス

トバイアス・ヒューム (?-1645)

アルメイン

ザ・スピリット・オブ・ガンボ

クリストファー・シンプソン (?-1669)

ヘ長調のディヴィジョン (二つのディヴィジョン・ヴィオールのための)

〈フランス〉

ルイ13世からルイ15世へ — 極度の洗練

ムッシュー・ド・サント＝コロンブ (?-1701?)

二つの同格ヴィオールのためのコンセール 第44番

(トンボー〈嘆き〉／鐘あるいはカリヨン／カロンの呼び声／嘆き／エリュシオンの歓び)

フォルクレ

『三つのヴィオールのための小品集』より (リール市立文書館 MS135)

アルマンド — サラバンド — クーラント

(2本のヴィオールのための編曲：パオロ・パンドルフォ)

〈ドイツ〉

ケーテンからベルリンへ — バロックから古典派へ

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)

前奏曲とフーガ

BWV1011 / BWV995

(2本のヴィオールのための編曲：パオロ・パンドルフォ)

クリストフ・シャフラート (1709-1763)

二つのヴィオラ・ダ・ガンバのためのソナタ

プログラムを変更する場合がございます。ご承知をお願いします。



Paolo Pandolfo
パオロ・パンドルフォ

©Susanna Drescher



Amélie Chemin
アメリ・シュマン

2026 **9/14** [月] 18:30 開場
19:00 開演

Halle Runde (名古屋市昭和区桜山町)

[チケット代金 (全席自由)] 整理番号順入場

*WEB早期申込み割引あり

一般：5,000 円 学生：2,500 円

ペア：9,000 円 (ルンデ取扱のみ)

チケットの購入はこちらから

ルンデ

<https://dbf.jp/runde/r260914>

*未就学児のご入場はお断りいたしております。



『花束よりチケットを』

ルンデでは出演者のプレゼント等は受付にてお預かりいたしません。
そのお気持ちをチケットにかえて、ご家族、ご友人とお越しいただけ
ましたらうれしく思います。

Program Note

ヴィオラ・ダ・ガンバという楽器は、もう一台のガンバとの出会いによって、その魅力を最大限に発揮する。人間の声にきわめて近い表現力を持つこの楽器は、二重奏となることで互いに歌い交わし、対話し、ときに共鳴しながら、単独では到達できない多彩な音楽世界を生み出すのである。

六本あるいは七本の弦を備えたヴィオラ・ダ・ガンバは、歌うような旋律のみならずリユートのような和音、鐘の余韻、さらにはカリヨンの響きまでも表現できる特異な楽器だ。その繊細かつ多面的な音色は、ヨーロッパ宮廷文化の極度に洗練された趣味と結びつき、ルネサンスから十八世紀後半に至るまで長く愛され続けた。

ヴィオラ・ダ・ガンバ・デュオはまずイングランドで発展し、その後フランスそしてドイツへと広がった。トバイアス・ヒュームの作品にはエリザベス朝の舞曲や仮面劇の影響が見られ、クリストファー・シンプソンの高度な装飾技巧はルネサンス後期の装飾伝統を受け継いでいる。

フランスではサント＝コロンブやマラン・マレによってヴィオール（ヴィオラ・ダ・ガンバ）芸術が大きく発展する。とりわけサント＝コロンブの作品はヴィオールの豊かな表現力を最大限に引き出し、悲嘆や追憶、幻想的な情景までも描き出している。

そして十八世紀のベルリン宮廷でヴィオラ・ダ・ガンバは最後の黄金期を迎える。フリードリヒ大王の宮廷ではルートヴィヒ・クリスティアン・ヘッセのような名手が活躍し、シャフラートやカール・フィリップ・エマヌエル・バッハらが優れた作品を残した。これらの作品では、二台のガンバは対等な対話を繰り広げ、のちの古典派弦楽四重奏を先取りするような書法も現れる。

十八世紀の音楽家たちは編曲や楽器の置き換えを自然な創作行為と考えていた。バッハ自身も作品をさまざまな編成へ書き換えており、その柔軟な発想はヴィオラ・ダ・ガンバ作品にも受け継がれている。

本日のプログラムは、イングランド、フランス、ドイツという三つの文化圏を巡りながら、二世紀にわたるヴィオラ・ダ・ガンバ・デュオの歴史をたどるものである。親密な対話から壮大な幻想までを描き出す二台のヴィオラ・ダ・ガンバを通じ、この楽器がヨーロッパ音楽史で果たした豊かな役割を感じ取っていただければ幸いである。

デュオ・パンドルフォ＝シュマン

パオロ・パンドルフォとアメリ・シュマンは音楽上のパートナーであると同時に、人生のパートナーでもある。
この関係が、二人の音楽における並外れた一体感を生み出している。



パオロ・パンドルフォ Paolo Pandolfo, viola da gamba

世界でも最も著名なヴィオラ・ダ・ガンバ奏者の一人。サヴァールに師事し、1982年から1990年までサヴァールのアンサンブルで演奏した。その後スイスの名門・バーゼルのスコラ・カントルムでサヴァールの後任として教授に就任。世界各地でソリストとして演奏を行い、ヴィオラ・ダ・ガンバのレパートリーに特化した数多くのCDをリリースしてきた。ヨーロッパ、アメリカ、オーストラリア、日本、ロシア、南米などでマスタークラスにも招かれている。



アメリ・シュマン Amélie Chemin, viola da gamba

パンドルフォの元生徒で、バーゼルでの学位取得後すぐ、パンドルフォと共にアンサンブルやデュオとしての演奏を始めた。バロック・チェロ奏者でもあり、ラ・チェトラ・バロック管弦楽団、イル・グスト・バロック、コンチェルト・シロッコ、ラケロン、カペラ・メディテラネア、イル・プロフォンド、ラ・トラディットーラなど、数々の重要な古楽アンサンブルのメンバーとして活動している。演奏活動は世界各地に及び、アンサンブルとの録音に加え、パンドルフォとの共演による録音も（《マレ 1689》、《クープラン：ピエス・ド・ヴィオール》、《レジーナ・バスタルダ》、《アーベル：バスソ付きソナタ》など、多数ある。

チケット販売 ▶▶ 芸文プレイガイド（052-972-0430） / ブレイクカフェ（Halle Runde 1階）

Web Live Concert 同時開催 ！ ルンデ会員登録が必要です。詳しくはルンデWebサイトのチケット購入ページでご確認ください。

ご来場の皆さんへお願い

- 発熱(37.5℃以上)および体調不良の方のご来場はお控えください。公演後でも構いませんのでご連絡いただきましたら、ルンデ主催の他公演への振替をいたします。
- マスクのご持参をお願いいたします。感染症蔓延期は必ず着用ください。
- ご来場いただく皆さんと共に作る音楽の場です。気軽に来ただけの場を目指していますが、よりよい空間にするためのルールとお願い事を下記URLのWebページに記載しておりますので、お時間があるときにご確認ください。

【ご来場の皆様へ（ルンデのルールその.2）】

<https://dbf.jp/runde/index.cfm?page=rule02>



一般財団法人 ルンデ

〒466-0044 名古屋市昭和区桜山町1丁目21番

TEL：052-846-8566 / E-mail：runde@dbf.jp

【アクセス】

ホールへお越しの方の駐車場ご利用はお断りいたします。

名古屋駅からは、名古屋市内地下鉄桜通線

金山駅からは、名古屋市内バスをご利用ください。

・名古屋市内地下鉄桜通線・鶴舞線「御器所駅」3番出口

・名古屋市内地下鉄桜通線「桜山駅」1番出口

・名古屋市内バス「桜山」

（それぞれ徒歩10分程度）

<https://dbf.jp/runde/>

